



ごあいさつ

医療連携福祉センター長の三國です。

この度、札幌医科大学附属病院は、組織機構の一部見直しを行い、医療連携センターも、医事相談センターの相談部門と統合し、平成29年4月1日から「**医療連携福祉センター**」として心機一転、新たに出発することとなりました。

今回の統合で、医療連携部門の新患外来予約、退院支援、セカンドオピニオン外来等の業務と相談部門の医療相談、ご意見窓口、がん相談サロン、肝疾患センター、ファミリーハウス受付、情報開示等の業務を、一つの組織が一体的に行うことにより、地域の皆様との連携が、より幅広く、ち密なものとなることで、医療サービスの充実を図り、地域医療への貢献につなげていきたいと考えております。

広報紙もタイトルを今回から「医療連携福祉センターだより」と改めまして、今回が8号目の発行となります。これまでも当院の様々な取り組みなどをご紹介してきましたが、地域の医療機関の皆様との連携が、当院の特定機能病院としての機能を果たしていくために、とても重要であると考えておりますので、これからも当センターからささやかながら情報を発信し、当院の素顔を少しでも知っていただくことで連携を深めていければと思います。引き続きよろしく願い申し上げます。



医療連携福祉センター長

三國 信啓

高度救命救急センター

地域医療の「最後の砦」たれ

— 大切な命をつなぐために —



病棟医長 井上弘行

高度救命救急センター・救急医学講座は、北海道の救急医療の中心としての責務を果たすべく、日々活動しております。

道内唯一の高度救命救急センターとして、心肺停止、ショック、急性冠動脈疾患、多発外傷、特殊外傷、重症熱傷、指肢切断外傷、重症感染症、急性薬物中毒、環境障害等の、救急車やヘリコプターで搬送され、短時間内に生命の危機が生じている最重症（3次）救急患者に対して、特殊緊急処置、ICU全身管理、体外循環、等の最先端医療を駆使し、また各専門診療科の協力も得ながら、24時間365日休むことなく診療を行っています。



また基幹災害拠点病院の救急医療施設として、集団災害（多数傷病者発生）に対応するための準備体制を維持し、災害発生時には医療スタッフの現地派遣（DMAT、国際緊急援助隊）や被災患者の収容を行っています。

我々は、広域かつ人口密度が低い北海道の患者広域搬送に不可欠なヘリコプターでの患者航空搬送を札幌医大病院屋上ヘリポートを活用して積極的に行っており、更には道内のドクターヘリ事業にも教室員を派遣し協力しております。また移植医療にも臓器・組織提供側の立場から積極的に関わっております。



救急医学講座としては、PCPS（経皮的心肺補助）を用いた心肺蘇生、蘇生後脳症に対する脳低温療法、虚血性心疾患・大血管疾患に対するステント治療、重症感染症、多発・特殊外傷治療、熱傷治療、急性薬物中毒治療、病院前救護、等の臨床研究、および急性薬物中毒、心肺蘇生、蘇生後脳症、環境障害、等に関連した実験研究を行っています。

社会から救急医療に寄せられる期待には大きなものがあり、同時に我々には、現在の高度医療の提供に加えて将来の医学・医療の発展を生み出し、現在と将来において社会に貢献するという医科大学としての責務があります。

今後は大学業務である高度医療、教育・研究、社会活動を建設的に進め、また高度救命救急センター・基幹災害拠点病院として、北海道全体の救急医療や災害医療を調和的に発展させていきたいと考えております。

限られた病床数のなか、重症救急患者さまの治療安定化後の長期療養のための転出先に苦慮しておりますので、患者さまの受け入れのご協力をお願いします。

この自然豊かな北海道の地から、救急の芽を育み、花開かせるため、わたしたちの取り組みは続きます。



高度救命救急センターのスタッフ一同

ホームページをご覧ください

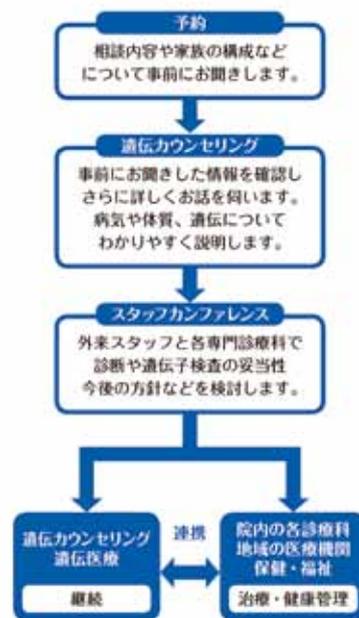
<http://web.sapmed.ac.jp/tccm/index.html>

臨床遺伝外来について、ご紹介します

札幌医科大学附属病院 遺伝子診療室

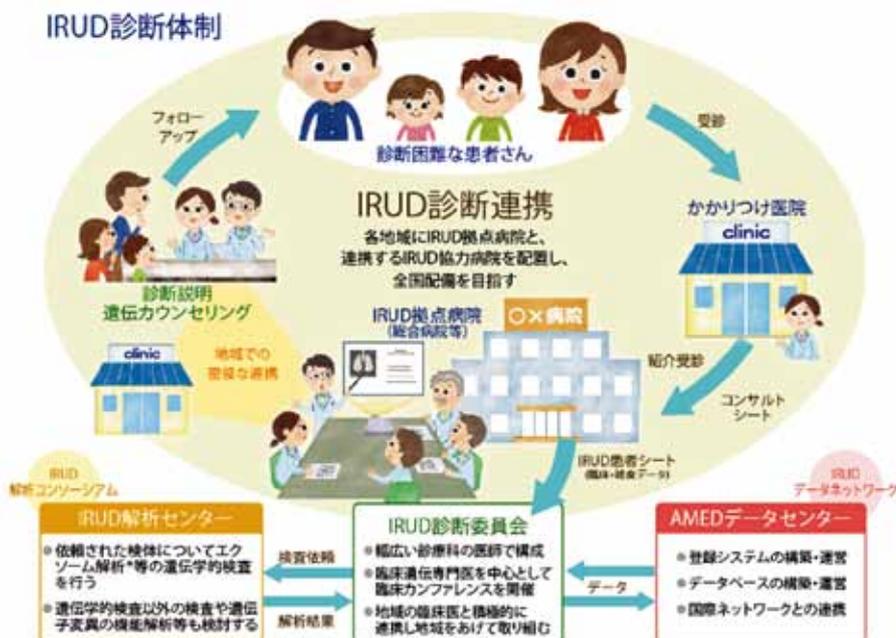
臨床遺伝外来の紹介・取り組みについて

臨床遺伝外来は平成25年10月に開設され、11月に診療を開始しました。各診療科・各部門と連携し、遺伝の問題や遺伝性の病気について、わかりやすく、丁寧に説明する「遺伝カウンセリング」を行っています。遺伝がかかわる病気や体質では、様々な対応が考えられます。それぞれの状況を判断して、正確な情報をお伝えし、不安や疑問が少しでも解消されるよう、必要に応じて遺伝学的検査（遺伝子診断）を含めた対処法を考えていきます。また、ご自身の健康管理についての今後における方針を決めていただくため、心理社会的な側面を含めたサポートをいたします。ご家族のご病気や遺伝の悩みなどがある場合は、健康な方でも受診していただけます。来院される方がリラックスしてお話いただけるよう配慮し、十分な時間を確保しています。個人情報やプライバシーに関する事項は厳重に管理し、安心して遺伝カウンセリングを受けていただけます。



未診断疾患イニシアチブについて

「未診断疾患イニシアチブ Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases (IRUD: アイラッド)」とは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) が主導する研究事業で、日本全国の診断がつかず、悩まれている患者さんに対し、専門家の知見に加え、遺伝子を幅広く調べる検査の結果と、患者さんの症状を照らし合わせることで、患者さんが罹患している稀な病気や新しい病気の診断と原因解明を目指すものです。札幌医科大学附属病院は、全国に18か所選定された(2017年1月現在)成人IRUD拠点病院の一つであり、主に成人の患者さんを対象とした研究(IRUD-A)に参加しています。かかりつけの医療機関から、遺伝性疾患が疑われる、診断が難しい成人の患者さんのご紹介を受け付けています。



臨床遺伝外来のスタッフです



遺伝医学・臨床遺伝外来のマスコット「サンとミーナ」

くわしくはホームページをご覧ください
<http://web.sapmed.ac.jp/genetics/>

INFORMATION

○組織の変更について

平成29年4月1日から、医療連携センターと医事相談センターの相談部門が統合し、「医療連携福祉センター」に生まれ変わりました。業務内容、係名、電話番号（内線）などは、今までと変わりませんが、医事相談センターの窓口業務が、1階から医療連携センターの場所に引っ越しました。

現在建設中の新棟が完成するまでの間、中央棟2階のファミリーマートの並びにある執務室で業務を行いますので、引き続きよろしく申し上げます。

○新患の受診予約について

1. 連絡先

月曜日～金曜日（平日） 電 話：011-688-9514 FAX：011-621-2233

2. 予約の申し込み

- ・専用の「新患外来診療予約申込書」を記入の上、**FAX**でお申し込みください。専用の書式は当院のホームページからダウンロードできます。（お電話いただければFAXで様式をお送りします）
- ・FAXの受付時間は9:00～12:00、13:00～16:00です。
- ・患者さんご本人からの申し込みは受け付けておりません（臨床遺伝外来、神経精神科を除く）
- ・患者さんが貴医療機関でお待ちの場合は15分以内を目途にFAXで予約票をお送りします。（医師指定の場合などは回答に時間がかかる場合がありますのでご了承ください）
- ・貴医療機関から患者さんへ予約票をお渡しく下さい。
- ・当日の新患外来受診の予約及び検査のみの予約はできませんのでご注意ください。

3. 受診受付

- ・患者さんは、予約票、保険証、診療情報提供書などをお持ちの上、予約時間の15分前までに新患受付5番窓口で受け付けし、外来でお待ちください。

新患外来受診予約のウェブサイト

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000002zmz.html>

(注意事項)

1. 通常診療

当院は特定機能病院であるため、初診の患者さんで他の病院等からの紹介状をお持ちではない場合は、初診料とは別に保険適用外の**初診時一部負担金（5,400円）**をご負担いただいております。臨床遺伝外来、神経精神科以外は予約なしでの受診もできますが、待ち時間軽減のためにも医療機関からの予約申し込みをおすすめします。

2. 再来診療

同じ診療科で1年以内に受診歴がある場合は「新患予約」の扱いになりませんので、14:00～15:30までに各診療科外来にお問い合わせください。（代表番号011-611-2111）

○セカンドオピニオン外来について

当院では、セカンドオピニオン（第二の意見）を求める患者さんやそのご家族に対して、既に診療を受けている医療機関からの紹介状と必要な資料に基づき、当院の医師から参考となる意見や判断を提供するセカンドオピニオン外来を開設しております。

◇ご用意いただくもの

主治医からの紹介状・画像・検査資料・相談同意書（ご家族だけで面談の場合）等

◇料 金

1回 60分以内 21,600円（消費税込）

◇申込方法

当院申込書にご記入のうえ、FAXでお申込ください。（申込書は当院ホームページからもダウンロードできます。）

申込書を提出された方へご連絡後、日程を決定し、各診療科外来にてご相談をお受けします。

セカンドオピニオン外来のウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/guide/mumhv60000002omq.html>

担当 医療連携係 011-611-2111 内線51230

編 集 後 記

今年は3月下旬に観測史上最高の積雪量を観測したり、春本番の陽気となる頃に吹雪に見舞われるなど不安定なお天気が続いていましたが、この広報誌が皆さまのお手元に届く頃は、さくらの開花前線が北上しお花見を楽しんでいらっしゃる頃でしょうか。

さて、当院「医療連携福祉センター」はインフォメーションでお知らせしましたように4月から相談係、医療連携係、退院支援係の3係が一つの部署となり、それに合わせて名称も変更されました。患者さんを取り巻く療養環境は病院からご自宅と幅広く、それに伴いますは3つの係が一体となって連携を図りながら、患者さんやご家族を支援していく必要性をひしひしと感じているところです。

地域の医療機関の皆さまから「ご相談なんですけど…」というお電話をたくさんいただきますが、これからも「迅速」かつ「丁寧」に対応できるよう務めていきたいと思っております。今後ともよりよい連携をどうぞよろしくお願いいたします。

医療連携係 主任看護師 不破 浩恵



札幌医科大学附属病院 医療連携福祉センター

医療連携係（内線51210、51230、31320） 退院支援係（内線31930、51260、51270、51250）
相談係（内線31840、31890、31900、31910、31920、31960、31940、31950、31310）

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
TEL：011-611-2111（代表） FAX：011-621-2233